

築70年以上の京町家を活用した宿泊施設に、漫画家・しりあがり寿(さん)(64)が、京都の名所や名物、人物の顔などを部屋の天井や壁、床の全面に貼られた和紙に墨で描いた部屋が登場した。期間限定で宿泊でき、関係者は、京都の伝統と、独特のゆるい世界のコラボレーションを楽しんでほしいとしている。  
(道念祐二)

# 夢の中でも墨絵漬け

しりあがり寿 静岡県出身。多摩美術大を卒業後、キリンビール入社。パッケージデザインや広告宣伝などを担当。1985年『エレキな春』で漫画家デビュー。94年の独立後も、ギャグ漫画や幻想的な作品など様々なジャンルで活動を広げている。主な作品に『ゆるゆるオヤジ』、『あの日からのマンガ』など。2014年、紫綬褒章受章。



部屋に貼られた和紙に墨で描いたしりあがり寿さん(いずれも中京区で)

## 漫画家・しりあがり寿さん 町家宿とコラボ

宿泊施設「蔵や 千本三条」(中京区)1階の約8畳の部屋には、大きな瞳の女性や、横たわるオヤジ、渦巻きなどのほか、送り火の五山、祇園祭の山鉦巡行、京都タワー、近くの京都三条会商店街が描かれている。

玄関の格子戸を開けると、土間の奥にその部屋はあり、宿泊者は布団を敷き、墨絵に包まれて寝ることが出来る。経営者の秦強さん(45)は「夢の中にいるような感覚になる。ぜひ『夢の中で夢を見る体験』をしてほ



しりあがり寿さんが描いた部屋に泊まれる「蔵や 千本三条」

## 京の見所ゆる〜く

しいと話す。2階にも、掛け軸や板に描かれたゆるい顔などの作品が並んでいる。

秦さんは、しりあがりさんが今春、東福寺塔頭・光明院(東山区)で開いた個展を通じて知り合い、人を和ませる作風に魅せられた。市内に町家を改装した宿泊施設を複数棟、経営する秦さんは、コロナ禍で落ち込んだ京都を盛り上げたいと、しりあがりさんに「宿に丸ごと描き下ろしてほしい」と直談判し、京町家とのコラボが実現したという。

しりあがりさんは9月末から5日間ほど宿泊施設で筆を握った。「下書きはしない。始まりも終わりもなく、ただ和紙に筆を走らせ、偶然性を大切にしながら描いた。まだ完成しておらず、最終的には真っ黒に塗りつぶそうと思っただけれど……」とユーモアを交えて話す。

作品展示は6日〜11月6日、無料で鑑賞できる。このほか、期間中の宿泊体験として1泊2日(2人)で5万円と20万円のプランを用意している。展示後の作品は、部屋に貼った和紙を丸ごとほがして販売するか、20枚程度に切り分けて販売する予定だという。問い合わせは「蔵や」(075・322・7722)へ。

## 街並み保存 道険し

伝統的な街並みを象徴する京町家は、維持・修理費が負担となって解体されるなどして減少している。

京町家は1950年以前に京都

市内に建てられた木造住宅を指す。老朽化や再開発で、年間約800軒が取り壊されているとされ、市の調査では約4万軒(2016年度時点)だった。

市は2018年5月、京町家の保存・継承に関する条例(通称・京町家条例)を施行。指定地域

内の京町家を解体する場合には1年前の届け出を義務づける一方で、保存維持のための補助金交付制度も始まった。

近年は、京町家での宿泊を望む外国人観光客の増加もあり、企業が空き家となった町家を借りるなどして宿泊施設

(簡易宿所)や飲食店に衣替えするケースが目立っていた。ただ、コロナ禍で外国人の京都市内での宿泊客数はコロナ以前に比べて9割以上減っており、京町家を活用した宿泊施設の経営も悪化し、閉鎖せざるを得ない例も出ている。